

令和3年度第2回市原地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 開催結果

- 1 会議名 令和3年度第2回 市原地域保健医療連携・地域医療構想調整会議
- 2 日時 令和4年1月25日（火）午後6時00分から午後7時15分まで
- 3 会場 Web会議システム（Zoom）
- 4 出席者 委員12名中11名出席
小出委員（代理 市原市保健福祉部長出席）、中村委員、宮吉委員、小西委員、岡本委員、岡嶋委員、和田委員、小出浩丸委員、林委員、中村委員、影山委員
- 5 配付資料 資料1）2025年に向けた医療機関毎の具体的な対応方針について
資料2）千葉県保健医療計画の中間見直しについて
資料3）地域医療構想研究会について
資料4）新型コロナウイルス感染症に係る発熱患者等への対応について
資料5）新型コロナウイルス感染症に係る後遺症患者への対応について
資料6）糖尿病性腎症重症化予防対策の推進について
資料7）今後の主な協議事項について

6 概要

（1）あいさつ（市原健康福祉センター長）

（2）議題

議題1 2025年に向けた医療機関毎の具体的な対応方針について

健康福祉政策課より、資料1に基づき説明。

〔意見・質疑応答〕

○有秋台医院 副院長より資料1に関する追加説明

地域の子供たちやお母さんのためにできるだけことはしたいので、病床を持たせていただきたい。開業してから45年が経ち、周りから頼ってもらえるため、様々なことをやっている。お産を含めてお母さんや子供たちが安心して通ってもらえるような施設に今後もしていきたい。

□地域医療構想アドバイザー

有秋台医院については、開設者の変更という手続き上の問題と捉えてよいかと思う。地域医療構想の立場から、現在の状況を維持・発展させていくという観点で適切な承継が行われていると考える。周産期や小児といった分野は、人員の確保が難しいので、歓迎すべき承継が行われていると期待する。

また、非稼働の病床について、患者数の減少、老朽化、人員不足といったことを理由に報告しているが、特に患者の減少については、医療技術が進歩したことにより在院日数が減少したため、入院患者数が減少しており、これは、医療が高度化しているという先進的な事例なのかもしれない。今後の見込みについて未定とあるが、市原地域は千葉市の隣にある大きな規模の医療圏でもある。さらに、外房側に山武長生夷隅医療圏を抱えていて、広域性を保った医療を提供する必要がある。そのような

観点から、非稼働病床の未定部分もなんらかの機能を担っていかなければいけないと考える。調整会議でしっかり議論いただきたい。

(3) 報告事項

報告事項1 千葉県保健医療計画の中間見直しについて

健康福祉政策課より、資料2に基づき説明。

報告事項2 地域医療構想研究会について

健康福祉政策課より、資料3に基づき説明。

報告事項3 新型コロナウイルス感染症に係る発熱患者等への対応について

健康福祉政策課より、資料4に基づき説明。

報告事項4 新型コロナウイルス感染症に係る後遺症患者への対応について

健康福祉政策課より、資料5に基づき説明。

報告事項5 糖尿病性腎症重症化予防対策の推進について

保険指導課より、資料6に基づき説明。

報告事項6 今後の主な協議事項について

健康福祉政策課より、資料7に基づき説明。

〔意見・質疑応答〕

○委員

「報告事項5 糖尿病性腎症重症化予防対策の推進について」、前任の保健所長の時から力を入れて市原市は取り組んできた。市原市保健福祉部と一緒にこの重症化予防対策が本格化する前から対策推進会議を開催しており、市原市医師会、薬剤師会、歯科医師会、保健所、市原市と共同でやってきた。専門医の先生が、県の会議に報告しており、市原はトップを走っているつもりだったので、改めてこれを説明されると、非常に残念である。報告のあったことは既に取り組んでいるということを県に理解してほしい。県は市原市が取り組んでいることを知らないということなのか。

●千葉県市原健康福祉センター長

県とは情報を共有している。

●保険指導課

市原地域においては、以前から力を入れて取り組みを行っていることは承知している。その上で市原地域に限らず、それぞれの特徴について傾向・分析を行っているところ。

○委員

市原市の財源で重症化予防事業を実施しているところであるが、報告事項のとおり県がデータを持っていて、市原市としても、国保データベースでデータを持っている。重症化予防事業は市の事業だと思っているが、県はデータを出して市にもっとがんばれと言いたいのか、その辺りは市の意見も聞きたいところ。どちらが主導権を持って重症化予防対策に取り組んでいくべきなのか。

○委員

市原市でできていない部分もあるので、県の評価を受け止めていく。例えば、治療を中断された方の受診勧奨は遅れている部分がある。どちらが主導権ということだが、実施については市原市が主体となって住民に向き合っていく。後方支援や全県を見た時の評価については千葉県から指摘や助言をいただくものとする。

○委員

令和6年度からは保健医療計画において、新興感染症の議論に加えるようにという話が出ている。現在、千葉県全体で1247床が新型コロナウイルス感染症病床のために確保されており、うち重症者のための病床が119床とのこと。これは、各フェーズに対応して、県からの要請で各病院が対応しているということ。新興感染症について、中間見直しで出てこないのは仕方がないとして、今後、病床機能報告を行う際には、どのような報告をするのか。

●健康福祉政策課

病床機能報告は毎年度7月1日時点の状況を報告いただいている。また、入院の受入状況については、年間を通じた数を報告いただいている。国からは次年度の病床機能報告のあり方について新しい連絡はもらっていない。従前どおりだと7月1日時点でどの病棟でどのような患者が多いのかというところから判断いただきご報告いただくことになる。また治療の実績については、レセプトデータを基に報告いただいている形になっているので、新型コロナウイルス感染症患者を含めた診療実績を基にご報告いただくことになるのではないかと考えている。また、国から違った形での報告になるなど連絡があったら、速やかに共有する。

○委員

パンデミックに備えて、地域の病床がどれだけ確保できるかわからないまま、対応している。国を待つのではなく、今回の反省も含めて、どのくらいの病床が必要か議論すべき。今後のことを考えると、検討課題に加えるべき。

●健康福祉政策課

御意見については受け止めて、協議事項の内容等にできる限り反映したい。

○委員

1月24日付け国から県への事務連絡について、報道であるとおり、新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者は、PCR検査を受けなくても症状だけで医師が判定して良い、という内容であった。その中

で医師が常駐するフォローアップセンターを作ることが重要だと記載してある。大阪府などいくつかの自治体にはあるが、千葉県はフォローアップセンターを作る予定があるか。

●健康福祉政策課

県では、当該事務連絡で示されているフォローアップセンターにあたる施設は有していない。事務連絡の内容については、急ぎ検討しているところ。どのような方向になるのか、現時点では答えられない。方針等決まり次第、共有したい。

○委員

重点医療機関等による会議でも同様な質問をする。

○委員

市原圏域の地域医療構想の課題について、人口が減っていることや、高齢者の割合が増えている中で具体的に課題を明らかにしていき、また、その対応を検討していくということ必要なのではないか。病院の中ではある程度課題が見えているが、圏域全体ではどうなのか、ということを調整会議の場で求められている気がするので、検討してほしい。もしくは検討の場に参加させてほしい。

●健康福祉政策課

調整会議の議題の設定の仕方などについて、まだまだ不足している部分があるということを認識した。次回以降の会議に有効的な議題を設定できるようにしたいと思う。

○委員

先ほどの意見について、以前は、県や千葉大学からデータをもらって課題を検討し、病院同士で集まって自主的な取り組みを合間に行った。今後は様々なデータをいただきながら、議論をしていきたい。

〔その他、意見・質疑応答〕

○委員（市原市医師会会長）

令和4年度の会議の日程等はどうなるのか。

●健康福祉政策課

次の会議は7月くらいに開催したいと考えている。国からは、地域医療構想に関わる民間医療機関を含めた再検討を依頼するのにあたりその詳細を示すと言われている。また、外来医療の報告について、今後ガイドラインを示すとのこと。このあたりの国の動向を見ながらスケジュールを検討していきたい。

〔総括〕

□地域医療構想アドバイザーより総括のコメント

市原圏域については、厳しくデータを検討しているという地域であったため、データをベースにした議論にならなかったことは残念である。協議自体が久々であったことや他地域では書面開催が多いため、県の方では地域の足並みをしっかりそろえておくということが課題にあったと考えられる。

次の会議の議論として、様々な医療機関がある中で、いかにネットワークを作っていくのかというのが重要な課題になっていくのではないと思われる。例えば、外来オペや外来化学療法のような外来機能と、かかりつけ医の機能をいかに使い分けていくかということが課題になっていくのではないと思われる。このあたりが次の会議の議論となっていくのではないか。

他に重要な点として、千葉県は充足している地域と不足している地域がある。充足が何を意味しているのか今一度考えてほしい。人口は減少の傾向となるが、それだけで医療機関が過剰であると表現して良いのかということを考えなくてはいけない。充足しているということは新しい施設を作りにくいという条件でもある。将来的な不足といったことも起こってくる。それに向けていかに取組をしていくのが重要。そういう意味でデータを基にしたり、広域的な取り組みをどうすれば良いのか、というようなことを論じなければいけないと反省させられた。千葉県の中でも千葉市の医療圏では千葉県全体を見ている医療施設の充実が見られるが、市原医療圏にも広域的にしみ出している部分があるのではないと思われる。ぜひ広域的なところまで目を配っていただいた上で、病床機能を今一度検討いただきたい。

現在、コロナ対応で緊急の対応となってしまうが、中長期的な対応をこの場で議論していくことが必要。この会議の合間に議論をされる場合は活発な議論を望むとともに、もしお招きいただければ顔を出したいと考えているので、そのような場に参加したいと考えている。

(午後7時15分 終了)